

### 1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業	30年度事業・施策評価結果		責任者	企画調整室 計画担当課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	国際バルク戦略港湾の取組			連絡先 連絡課	052-654-7911	
目的	対象(誰・何を)	国内産業や国民生活に必要な不可欠な食糧等			事業 期間	平成23年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	大型船舶の活用等により、海上輸送や取扱機能の効率化を通じて、安定的かつ安価に供給します。				
概要	平成23年に国際バルク戦略港湾に穀物(トウモロコシ)で選定された後、穀物輸入を取り巻く環境や社会経済情勢が大きく変化していることから、関係者の意見を十分に聞きつつ計画内容の検証を行います。			根拠 法令等		
令和元年度の実施予 定	関係者の意見をきくとともに、穀物輸入を取り巻く環境や社会経済情勢の変化、企業動向、土地需要などを見据えながら、計画内容の検証等を行います。			実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				関連 シート		

### 2 DO(実施)

令和元年度に実施した 内容・結果	国際バルク戦略港湾推進会議へ参加し、他港の動向の把握や意見交換を行うとともに、国土交通省へ国際バルク戦略港湾に関する提案・要望活動を行いました。また、穀物輸入を取り巻く環境等の情報収集や穀物関連企業への意向調査等を行いました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	令和元年度に事務の体制を見直しました。
人件費	千円	18,380	18,438	9,174	15,331	
合計	千円	18,380	18,438	9,174	15,331	

### 3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
国際バルク戦略港湾 の取組状況(全3件)  (単年度管理型)	目標			3	3	取組は【①国際バルク戦略港湾推進会議への参加、②国際バルク戦略港湾に関する要望活動、③穀物関連企業との協議】の3件の内、実施した件数	物流動向
	実績	3	3	3			
事業進捗状況(元年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どまり 目標値を下回る			
目標							
実績							
事業進捗状況(元年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	社会経済情勢が依然不透明なことから、引き続き、関係者の意見を聞きつつ計画内容の検証を行う必要があります。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？ ○ 関係者との意見交換を行い、また社会経済情勢を見極めながら進める必要があります。					
有効性	○	事務事業は、施策達成に貢献するか？ ○ 穀物輸入を取り巻く環境等を把握しながら、関係者との意見や国への要望活動等を実施しています。					
効率性	○	期待どおりの成果が得られているか？ ○ 業務に応じた体制の変更を行いました。					
最小のコストとなっているか？	○						

### 4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	穀物輸入を取り巻く環境等を見極めながら取り組んでいく必要があるため。
課題	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
2年度以降の取組			
穀物輸入を取り巻く環境や社会経済情勢が大きく変化していることから、関係者の意見を十分に聞きながら進める必要があります。		引き続き、国際バルク戦略港湾推進会議へ参加して他港の動向等を把握するとともに、穀物関連企業や国と協議を行っていきます。	